

専門部会の設置について

1 専門部会の目的

広島市総合交通戦略を改定するため、本市における人の交通行動の実態や交通状況の変化等を把握し、今後の交通施策に資する交通実態調査（別添参照）を実施します。

この交通実態調査の調査手法や交通実態を踏まえた議論の方向性などを協議することを目的として、専門部会を設置します。

2 調査項目

- ・ 交通実態調査の調査手法、データの収集方法
- ・ 交通実態を踏まえた議論の方向性

など

3 構成員

区 分	所属・職名	氏 名
学識経験者	広島大学大学院国際協力研究科 教授	藤原 章正
	福山市立大学都市経営学部 教授	渡邊 一成
交通事業者	西日本旅客鉄道株式会社広島支社 企画課担当課長	国政 稔己
	広島電鉄株式会社 交通政策本部長 交通政策部長	古武家 雅光
	広島高速交通株式会社 総務部長	伊藤 博雅
	公益社団法人広島県バス協会 専務理事	西川 雅己
	一般社団法人広島県タクシー協会 専務理事	富田 直也
	公益社団法人広島県トラック協会 専務理事	岩本 和則
	広島県旅客船協会 専務理事	松山 生馬
行政（国）	国土交通省中国地方整備局広島国道事務所 副所長	高口 敏弘
行政（県）	広島県土木建築局 都市計画課長	菅島 章文
行政（市）	広島市道路交通局 次長	加藤 浩明

※ 調査項目によっては、適宜必要な構成員を追加する。

交通実態調査について

交通実態調査とは

交通実態調査は、交通の主体である人に着目し、「どのような人が」「どのような目的で」「どこからどこへ」「どのような交通手段で」移動したかなどの「人の一日の動き（トリップ）」をアンケート調査により調べるものです。

そこから、鉄道やバス、自動車、徒歩といった各交通手段の利用割合や交通量などを求めることができます。

■トリップとは

人がある目的をもってある地点からある地点へ移動したときの単位をトリップといいます。1回の移動で複数の交通手段を使っても、全体を1トリップと数えます。



総合交通体系調査の変遷

● 広島都市交通問題懇談会(HATS I)(S42第1回パーソントリップ調査) S42(1967)～S44(1969)

対象地域	1市13町
総人口	75万人
抽出率	5%



- ◆ 予測年次:昭和60年(1985年)
- ◆ 幹線道路網計画、軌道系交通網計画を策定

● 広島都市圏総合交通体系調査(S53ミニパーソントリップ調査) S53(1978)～S55(1980)

対象地域	1市6町
総人口	107万人
抽出率	1.3%



- ◆ 予測年次:昭和65年(1990年)
- ◆ 幹線道路網計画、軌道系交通網計画の見直し、基礎的データの更新

● 広島都市圏総合交通体系調査(S62第2回パーソントリップ調査) S61(1986)～H2(1990)

対象地域	4市6町
総人口	150万人
抽出率	7.5%



- ◆ 予測年次:平成22年(2010年)
- ◆ 幹線道路網計画、軌道系交通網計画の見直し、基礎的データの更新

● 広島市交通実態調査(総合交通戦略) H20(2008)～H21(2009)

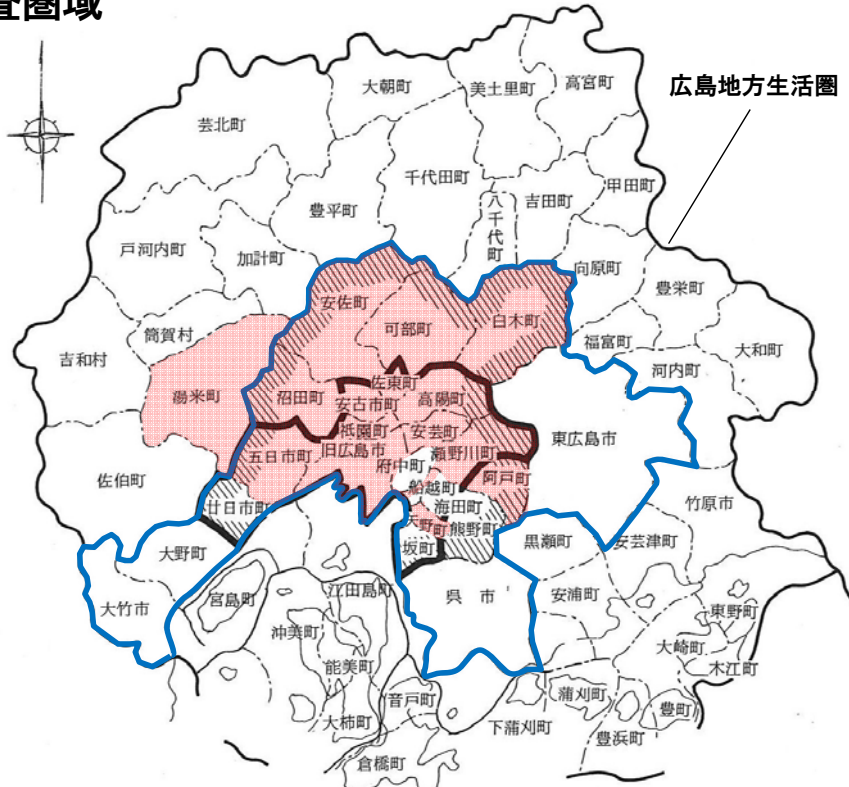
対象地域	1市
総人口	110万人
抽出率	3.4%

- ◆ 総合交通戦略の策定
- ◆ 新白島駅の整備

交通実態調査の概要

これまで広島都市圏で実施したPT調査等の圏域

調査圏域



調査名	調査圏域(市町名)	凡例
第1回PT調査 (S42～S43)	旧広島市、祇園町、安古市町、佐東町、安芸町、高陽町、船越町、瀬野川町、矢野町、五日市町、府中町、海田町、坂町、廿日市町	
ミニPT調査 (S53～S55)	広島市(旧広島市に祇園町、安古市町、佐東町、安芸町、高陽町、船越町、瀬野川町、矢野町、沼田町、安佐町、白木町、阿戸町が合併)、府中町、海田町、熊野町、坂町、五日市町、廿日市町	
第2回PT調査 (S62～S64)	広島市(さらに五日市町が合併)、呉市、大竹市、東広島市、府中町、海田町、熊野町、坂町、廿日市町、大野町	
広島市交通実態調査 (H20)	広島市(さらに旧湯来町が合併)	

H30広島市交通実態調査の概要

広島市居住者

平日・休日の各一日における移動の実態(移動目的、移動交通手段、出発地・到着地、出発時刻、到着時刻等)や普段の生活・交通行動について調査(11月に実施予定)

【アンケート調査】

広島広域都市圏内(広島市居住者を除く) 広島広域都市圏外居住者

平日・休日の各一日における広島市を訪れる際の移動の実態を把握

【Webアンケート調査】

対象エリア

